

# 常設委員会報告

## 総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

令和元年度総務委員会は、下記の10名にて構成されています。

- 委員長：阿部 暢夫(富士開発(株))
- 副委員長：加藤 信治((株)松原工事事務所)
- 委員：西部 雅英((株)ヨコタテック)
- 委員：坂本 健二((株)東海ジオテック)
- 委員：真鍋 保幸(東海地質工学(株))
- 委員：天木 亨(興亜開発(株))
- 委員：田畑喜久夫((株)フジヤマ)
- 委員：山本 貢司(東洋地研(株))
- 委員：土屋 靖司((株)富士和)
- 委員：近藤 拓己(不二総合コンサルタント(株))

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動は、以下のとおりです。

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
  - ・独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ)新入会員の入会促進運動
- ハ)地質調査の資格試験に関すること
  - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
  - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
  - ・登録更新講習会の実施
  - ・地質情報管理士資格検定試験
  - ・その他地質調査技士に関すること
- ニ)四支部協議会の実施
- ホ)会員相互の親睦会の実施
- ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

### ●親睦ボーリング大会

- 令和元年5月24日 星ヶ丘ボウル
- 参加者 93名(18社)
- 優勝者団体：(株)興亜開発
- 個人男子：(株)ダイヤコンサルタント 井澤 祐二
- 個人女子：青葉工業(株) 大橋 千枝

### ●第54回地質調査技士資格検定試験

令和元年7月13日 名古屋国際会議場

| 部門          | 受験者 | 合格者 |
|-------------|-----|-----|
| 現場調査        | 19  | 15  |
| 現場技術・管理     | 74  | 22  |
| 土壌・地下水汚染    | 4   | 2   |
| 応用地形判読士(1次) | 3   | 0   |
| 地質情報管理士     | 13  | 2   |
| 計           | 113 | 31  |

### ●第56回地質調査技士受験者対象講習会

令和元年6月28日 名古屋国際会議場

受講者 52名

### ●令和元年度 コンプライアンス講習会

令和元年11月11日 名古屋ガーデンパレス

受講者 271名(131社)

講師：公正取引委員会事務総局 中部事務所

経済取引指導官

樋田 高文

下請課長

齋藤 誠誉



コンプライアンス講習会実施状況

### ●令和元年度 地質調査技士登録更新講習会

令和元年11月29日 名古屋国際会議場

受講者 165名

### ●四支部協議会

令和2年2月28日

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

### ●新春賀詞交換会・麻雀大会

令和2年1月18日 麻雀「琥珀」

参加者 28名(15社)

優勝者 青葉工業(株)名古屋支店

最後に、委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



## 研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和元年度の研修委員会のメンバーは、以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓((株)大和地質)
- 副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
- 委員：都築 孝之(日本物理探鑛(株))
- 委員：中山 宏史((株)総合開発調査)
- 委員：大出 彰宏(日特建設(株))
- 委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
- 委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱(株))
- 委員：坂本 博之((株)日さく)
- 委員：中野強一郎((株)中野地質)
- 委員：大井 寿彦((株)東日)

当委員会の本年度の活動内容は、以下の通りです。

- イ) 協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
  - ロ) 現場見学会による研修会の開催(隔年実施予定)
  - ハ) 技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
  - ニ) 女性技術者活躍推進座談会の開催
- 以下に主な活動について報告します。

### ●令和元年度 女性技術者座談会の開催

開催日時：令和元年7月26日(水)

会場：ホテル名古屋ガーデンパレス

参加者：13名

議題：「女性が働きやすい環境づくり」

議題にそって座談会(ワールドカフェ方式)にて、主にワークライフバランスについて業界で働く女性ならではの悩み等を抽出し、対処策について意見交換を実施した。年齢や所属の垣根を越え、リラックスしたざっくばらんな討論を交わし参加者全員満足で大変盛り上がりました。



写真-1 女性技術者座談会の様子



写真-2 オープンキャンパスでのミニ実験

又、男女問わず若手技術者の確保へ向け、高校生・大学生に当業界を知ってもらうため、大学オープンキャンパスにブースを出展した。参加されました女性の皆様、更に各社の代表者の皆様の御理解、御協力に心より感謝申し上げます。

### ●令和元年度 新春技術者懇談会

開催日時：令和2年1月30日(木)

会場：ホテル名古屋ガーデンパレス

主催：(一社)中部地質調査業協会

共催：中部土質試験協同組合

講師：吉田 英一先生(名古屋大学)

参加者：53名

令和になって初めての新春技術者懇談会は、吉田英一先生による「球状コンクリーションの科学」について、ご講義をしていただきました。

- ①球状コンクリーションの形成プロセスの解明と定量化
  - ②火星の球状コンクリーションの成り立ちを解明
  - ③球状コンクリーション化による地質年代測定への試み
  - ④球状コンクリーション化のシーリングプロセスの活用
- 以上、4つの分野にて研究結果のお話を聞くことができました。この丸くて硬い岩石は日本各地や世界各国、否、遙か彼方の火星にまで存在しているとのことでした。

講演後の懇談会にも出席者全員の方の参加により、吉田先生を囲んだ和やかな雰囲気の中、大変盛り上がりました。



写真-3 新春技術者懇談会の様子



写真-4 吉田先生による講演

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。

## 女性活躍推進ワーキング活動報告

### 1.ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは、平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、本年度より以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代((株)ダイヤコンサルタント)/石原 聖子(中部土質試験協同組合)/下山 友実(玉野総合コンサルタント(株))/高見 幸恵(川崎地質(株))/二宮 真帆((株)朝日土質設計コンサルタント)/平江 喜子(応用地質(株))/三好 千春(東邦地水(株))

### 2.活動の概要

令和元年度のワーキングの活動は4月、5月、7月、9月、11月、1月の計6回行った。活動の内容は以下の4点。

昨年度からの継続活動として①女性技術者座談会の開催、②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加。

今年度の新たな活動として③大学オープンキャンパスへのブース出展、④SNSでの情報発信の準備。

#### ①女性技術者座談会の開催(7月)

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した(詳細は3項)。

#### ②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などを『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

女子学生の進路選択に地質調査業が含まれるよう、ワーキングの活動などを発信していくため、リコチャレ応援団体に中部地質調査業協会として登録(平成30年度)し、本年度はロールモデルの掲載を行った。今後も定期的な更新や活動の掲載依頼を行っていく。

#### ③大学オープンキャンパスへのブース出展

男女問わず若手技術者の確保へ向け、高校生・大学生に地質調査業を知ってもらい、進路選択の参考にさせていただくことを目的とし、2019年7月13日・14日に大同大学オープンキャンパスでのブース出展をさせていただいた(詳細は4項)。

#### ④SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうためにSNS(Twitter)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っていく。

### 3.女性技術者座談会の開催

#### 3-1女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは2019年7月26日に「女性が働きやすい環境づくり」をテーマに第2回女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレス(中区)で開催した。主にワークライフバランスについてや業界で働く女性ならではの悩みなどを抽出、共有し、それらの対処策について話し合った。

参加者はワーキンググループメンバー7名を中心に経験年数3か月～27年という幅広い計13名の方に参加いただき、ワールドカフェ方式で行った。

前回参加者も多数おり、要領や場の雰囲気分かっているからか、年齢や所属の垣根を越え、リラックスした雰囲気できっとばらんに意見を交わすことができた。



ワールドカフェの様子

#### 3-2座談会での議論

「女性が働きやすい環境づくり」と題し、女性技術者として働く上での問題点、その解決策やより働きやすくするための制度等について議論した。前回の議論内容も踏まえ、さらに活発な議論を行うことができた。

- ・身近に女性技術者がいないため、仕事やワークライフバランスに関する相談をする相手がいない。
  - ・現場でのトイレや力仕事、夜勤などへの配慮はきちんといただいているが、過剰な配慮に辟易とすることもある。
  - ・産休、育休、時短、介護休等の制度について取得することに後ろめたさを感じる。これらの制度の必要性について周りの理解があるか、または取得するにあたって適正な人員配置をしてもらえないかが不安。
- ⇒男性の育休取得を推進するべき。育休取得経験のある上司がいれば相談しやすく、前例があればそれに続き、若手の育休取得にもつながるのでは。
- また、適正な人員配置について、一部の会社で設けられている結婚、妊娠を機に一度離職した女性技術者の再雇用やパートタイムでの復帰が可能な制度を広めるとよいのでは。
- ・生理休暇の扱い
- ⇒制度上あるものの女性の体のことなので上司に理解を求めることは到底不可能であるため生理休暇として取得しづらい。また、個人差(体調を崩すタイプや精神的

## 女性活躍推進WG 岩崎 理代

に不安定になるタイプ)のあることなので、病気休暇やリフレッシュ休暇等男性でも取得できるような名目の休暇制度の方が使いやすいのでは。

- ・ 時間休の普及
- ⇒半休とは別に時間休を有効に使うことで女性だけでなく男性社員も家事、介護、育児に協力することができるのでは。
- ・ 一部の会社では運用されているが、各部署でノー残業デーや有給取得率を一定率達成すると賞与に反映される、など自分の上司も含めた休暇取得や定時退社しやすい環境を整備できるとよいのでは。



参加者の集合写真

また、前回の参加者からは前回の座談会から休暇取得や就労時間について自分の考えをしっかりと持つようになったという意見や、仕事は仕事、プライベートはプライベートと割り切ってきたと自分の時間を持つようになった、などという意見もあった。

非常にお忙しいところ今回の企画に参加いただいた皆様、座談会出席にご理解いただいた各社に感謝申し上げます。

### 3-3座談会の参加後アンケート

座談会の参加後に行ったアンケートでは、参加者全員に回答いただいた。全員の参加者から参加してよかった、今後も参加したいとの意見をいただいた。

今後、女性活躍ワーキンググループにどのような活動を期待するかとの問いには、座談会規模の拡大を希望する声が上がった。

意見・感想など自由記述欄では

- ・ 他社の制度の話が聞けて良かった。
  - ・ 社内に女性技術者が少ないため、他社の女性技術者の方とラフに意見交換できたのは大変有意義だった。
- といったポジティブな意見や感想をいただいた。

## 4.オープンキャンパスへのブース出展

### 4-1オープンキャンパスへのブース出展の概要

若手技術者の確保へ向け、高校生・大学生に地質調査業を知ってもらい、地質調査業への就職、進路選択の参考にしていただくことを目的とし、2019年7月13日・14日に大同大学オープンキャンパスでのブース出展をさせていただいた。2日で約45名の来訪があった。

### 4-2ブース内容

- ・ 地質調査業の紹介

掲示による紹介と協会誌「土と岩」の配布。

思いのほか好評で、段ボール3箱満載の量が、二日で残り半箱となるほどだった。「豪雨と災害」の特集号が最初に無くなり、災害への関心が強いように感じた。

- ・ 若手技術者のロールモデル紹介

WGメンバーと有志によるロールモデルを掲示し、来訪者へ紹介した。また、空き時間に自由に見ていただけるようにした。このような業界で多くの女性が働いていることに驚く方や、入社後の勤務地を気にされる方が多く、興味を持って閲覧していただいた。

- ・ 液状化ミニ実験

ミニ液状化装置では車や家、地下埋設物の模型を使い実験を各々数回行った。また、ペットボトルで作成したエッキーくんを自由に手に取り、体験いただいた。

### 4-3まとめ

女子学生の来訪はなかったが、土木の道を志す多くの高校生やその保護者に地質調査業界を知っていただき、魅力を伝えることができた。

本WGでは、この経験をもとに業界の若手獲得に向け、ほかの大学や高校等での活動を広げていきたいと考えている。

また、今回の活動で出会った学生らが具体的な将来のビジョンを思い浮かべる際に、地質調査業で活躍する姿があることを期待し、今後もこのような活動を続けていく予定である。



ブース全景

## 5.今後の活動について

女性活躍推進ワーキンググループでは、来年度の活動として、女性技術者座談会の定期開催(年1回)と業界認知度の向上のため、リコチャレHPの更新、SNSでの情報発信、女性技術者のロールモデル作成や地元大学の就職支援室等でのイベントやセミナーの開催を目指していく。

また、ワーキングの活動で抽出された問題点の提議や協会への要望等、地質調査業が魅力ある業界となるよう、随時働きかけを行っていききたい。

来年度以降も特に女性技術者同士のネットワーク構築や若手技術者獲得に向けての活動を積極的に行っていきたい。



## 広報委員会報告

委員長 西岡 吉彦

令和元年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の11名のメンバーで構成されています。

- 委員長：西岡 吉彦(川崎地質(株))
- 副委員長：河原 弘明(中央開発(株))
- 委員：森 理(協和地研(株))
- 委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
- 委員：佐藤 安英((株)中部ウエルボーリング社)
- 委員：後藤 邦夫((株)テイコク)
- 委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
- 委員：狩野 行宏((株)中日本コンサルタント)
- 委員：服部 剛明(服部エンジニア株)
- 委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
- 委員：松本 正博((株)増田地質工業)

(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

※(株)テイコクは途中で佐橋委員から後藤委員に交代されました。

本年度の広報委員会活動方針は、令和元年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
  - ロ)中部地方整備局との意見交換会の実施
  - ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
  - ニ)全地連積算委員との連携
  - ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
  - ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
  - ト)広報活動での「土と岩」の配布
- 以下に、主な活動について報告します。

### ●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会のご協力を頂き、8班編成で7月上旬～8月上旬にかけて実施しました。

訪問先は、中部協会の広報委員会が愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人を担当し、愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会が各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」67号
- ・全地連PR誌：日本ってどんな国
- ・防災協定の写し

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌67号は、「地質の最新技術～これからの地質調査～」をテーマに特集を組んだものです。特集では衛星SARや宇宙線ミュ粒子を利用した調査手法、CIMの利用が紹介されています。地質調査の最新技術には目を見張る技術がありますので、是非ともご覧になって下さい。また、同号には特別寄稿「豊橋技術科学大学・安全安心地域共創リサーチセンター」の活動紹介や散文「身近な地質スポット【前編】」の紹介等盛りだくさんの内容を掲載しています。配布先では、協会誌の完成度の高さに多くの方々が感心され、技術資料としても価値が高いとお声を頂戴し、各所で各部署の皆様方にも回覧するとのお約束を頂きました。

同号には平成30年10月31日に国土交通省中部地方整備局と行った「平成30年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様相も報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連PR誌「日本ってどんな国」は、我々の生活になくってはならない地図をテーマにした、「地図に学ぶ」です。この小冊子では、地図でないとわからないこと、地図の歴史、地図の利用、そして、これからの地図について、わかりやすくご紹介しています。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にもかかわらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

### ●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和元年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、昨年度と同日の令和元年10月31日に桜華会館にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その様相は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

### ●委員会の取り組み

広報委員会は、今後ますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



## 技術委員会報告

委員長 法安 章二

令和元年度は、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

委員長：法安 章二(玉野総合コンサルタント(株))  
副委員長：土本 浩二((株)ダイヤコンサルタント)  
委員：浅川 実(日本エルダルト(株))  
委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)  
委員：片岡 泰((株)キンキ地質センター)  
委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))  
委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)  
委員：土屋 国彦(土屋産業(株))  
委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進
  - ・「中部ミニフォーラム2019」企画・開催(R1.10.18)
- ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力
  - ・「地盤調査ボーリング作業見学会」の開催(H31.4.26)
- ハ) 全地連が主催する講習会の開催支援
  - 二) 地質調査関連講習会への講師派遣

### ●地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業・物理探査～室内土質試験見学会」に中部土質試験協同組合と共催の形で毎年実施しております。

技術委員会は、ボーリングマシンを使用する現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリング用ツールについても各種展示しました。

参加者は60名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は30名でした。



ボーリング作業

### ●中部ミニフォーラム2019

名古屋国際会議場で開催し、60名の参加を賜りました。

今年度も12名と多くの技術者が発表し、その後発表内容に対しての意見交換の場を設け、各セッションの終了時に座長が簡単な講評をまとめました。限られた時間の中で、経験豊富な技術者からのアドバイスや意見交換ができ、非常に有意義で密度の濃い知識の集積を計ることができました。

また、特別企画として当協会OBの渋谷氏と米田氏に、「技術の伝承」をテーマに、大変貴重なご講演を頂きました。

優秀論文発表者は、論文及び発表審査の結果、下記の2名の方に決定しました。

- ・「液性限界・塑性限界試験における初期含水比の影響について」：伊吹 卓紘(ジオ・ラボ中部)
- ・「落石の実態と落石対策施設計画への活用」：伊藤 匠司((株)テイコク)



中部ミニフォーラム2019 発表会場

このほか、地盤工学会中部支部および日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、並びに後援等の協力については、以下の通りです。

- 日本応用地質学会中部支部
  - ・災害調査報告会、意見交換会(R1.5.24)
- 地盤工学会中部支部
  - ・第28回調査・設計・施工技術報告会(R1.6.21)
  - ・第31回中部地盤工学シンポジウム(R1.8.8)
  - ・岐阜豪雨災害復旧工事等の視察(R1.12.2)
- 建設コンサルタント中部支部
  - ・「設立50周年記念イベント」ブース出展(R1.9.21)



# 防災委員会報告

委員長 武藤 英教

令和元年度のメンバーは以下の7名です。

- 委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
- 副委員長：澤田 哲郎((株)朝日土質設計コンサルタント)
- 委員：澤田 茂((株)興栄コンサルタント)
- 委員：中島 和俊(国土防災技術(株))
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
- 委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)
- 委員：岡野 直次((株)ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

1. 中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
2. 「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として、各種会議や防災訓練に参加
3. 建コン中部支部50周年イベントにパネル等出展
4. 震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

## 1. 事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計94事業所が登録され、登録派遣人員数は500名となっています。

## 2. 南海トラフ地震対策戦略会議の構成員としての活動

令和元年5.19豊田市白浜公園にて、広域連携防災訓練に参加しました。伊勢湾台風から60年の節目の年でもあり、三河地域での最大規模の演習でした。

令和元年5.30第10回戦略会議に出席しました。構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザリー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。



第10回戦略会議

## 3. 建コン中部支部50周年イベントにパネル等出展

令和元年9.21に技術委員会と合同で「インフラ整備を

支える地質調査」をテーマに展示パネルや土質岩石標本を新規作成掲示したり、岩石文鎮を作成配布し、参加者に対して防災・減災の啓発活動を行いました。



展示ブースにて啓発活動

## 4. 「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練を行っています。中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月25日に実施しました。

施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録会員94事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

配下協会員には練習日を伏せて行ったことにより、回答率は76%(昨年は80%)と若干下がりましたが、より実践的な訓練ができたと考えています。



災害対策本部からの情報収集状況

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、中部土質試験協同組合との施設提供の協定締結や、地盤工学会中部支部との災害時相互協定の締結も行き、協会としての防災体制を構築してきました。

この協定を円滑にまわすためには、構成員のBCP体制の構築が不可避となってきています。

会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立に引き続き努めていただきますようお願い申し上げます。



## 編集委員会報告

委員長 和田 昌樹

令和元年度の編集委員会は、下記の10名で運営してきました。

- 委員長：和田 昌樹(応用地質(株))
- 副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
- 委員：吉岡 恭一(明治コンサルタント(株))
- 委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)
- 委員：藤本 俊之((株)東建ジオテック)
- 委員：山里 剛史((株)ダイム技術サービス)
- 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
- 委員：松本 隆(丸栄調査設計(株))
- 委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
- 委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は、以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」67号の発刊、配布先の検討、配布、68号の企画制作
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(HPワーキング担当、次頁にホームページワーキンググループの活動内容を別途掲載)。

### ●「土と岩」68号の編集作業について

令和元年度は、3回の委員会開催と数回程度のメール審議により、68号の企画・構成から執筆者の選定と原稿依頼、受領原稿の校閲、デザイン構成等を行い、発刊の準備を進めてきました。

### ●特集テーマと編集方針

今年度の初回の委員会では、68号の特集のメインテーマについて、過去の編集委員会で候補案に上がっていたものを踏まえて検討・議論を行いました。その結果、技術の空洞化や若手技術者への教育・指導を問題視する中、ベテラン技術者から若手技術者への技術の継承・伝承に関する提案が多く、若手技術者には技術習得に対する意気込みを、また、ベテラン技術者には、次世代を担う若手技術者に伝えたいことを執筆していただくこととし、タイトルを「若手技術者の挑戦」としました。

内容につきましては、「自己紹介」や「これまで携わってきた業務」の他、若手技術者には「目標とするエンジニアリング像」や「将来の夢」や「地質調査業界に望むこと」を、また、ベテラン技術者には「経験した成功・失敗談等を基に若手技術者に伝えたいこと」を執筆していただくこととしました。

読者の皆様には、これら特集内容を一読していただき、当業界の抱える問題点や若手技術者が感じていること、ベテラン技術者が経験してきたこと知っていただき、今後の業務に生かしていただければと思います。

### ●特別寄稿

今年は、東海地区の大学防災・減災センターシリーズを継続して、静岡大学防災総合センターを取り上げ、岩田先生に執筆していただきました。本センターは、本誌でこれまで紹介してきました東海地域の6国公立大学法人の防災センターで組織される「東海圏減災研究コンソーシアム」に参画する機関であり、産官学民の継続的協働による防災人材の育成、一般市民向けの防災教育などを通じて、防災・減災力の向上を図ることで、地域で想定される被害の大幅軽減を目指しています。巨大災害への対応のあり方として、皆様の今後の業務の一助、または、きっかけになればと期待したいと思います。

### ●散文

散文は、これまでの協会ホームページに掲載されてきた「身近な地質スポット」が、一般の読者にも気軽に読んで頂ける内容であることから、これを再編集して載せることとしたものです。

誌面の関係から、前・後編の2回に分けて掲載することとし、昨年は前編をそして今回は後編を掲載させていただきました。

### ●その他の記事等について

令和元年10月に開催した国土交通省中部地方整備局との意見交換会の内容を掲載いたしました。現状の発注環境や業界の課題等について垣間見ていただけるものと思いますので、会員の皆様のみならず、広く読者の皆様にご一読いただければと思います。

また、協会で若手育成の一環として毎年開催しています中部ミニフォーラムでの優秀賞2編、また、協会活動報告として常設委員会である総務、研修、広報、技術、防災、編集の各委員会報告と、女性技術者ワーキング、ホームページワーキングの活動報告をまとめました。

末筆ながら、お忙しい中、本誌に寄稿いただきました皆様には、改めて深く感謝いたします。

また、本誌の口絵写真の掲載に関しては、国土交通省中部地方整備局殿にご提供いただきました。重ねて感謝申し上げます。

今後も、皆様に興味深く愛読される機関誌づくりを目指してまいりますので、よろしく願いたします。





# ホームページワーキング活動報告

<http://chubu-geo.org>

## 令和元年度のワーキングの構成

令和元年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、中西副理事長、和田編集委員長が加わり、活動を行ってきました。なお、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上、連携強化をモットーに活動してきました。

- 委員：宮尾 浩一(応用地質(株))
- 委員：米田 英治(川崎地質(株))
- 委員：津坂 喜彦((株)アオイテック)
- 委員：鈴木 優(基礎地盤コンサルタンツ(株))
- 委員：小倉 直也(東邦地水(株))
- 委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)

## 令和元年度の活動の概要

令和元年度のホームページワーキングは、ホームページ利用者アンケートの整理・分析、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応(4月~5月)から始まり、ミニフォーラム・技術フォーラム等の表彰論文の掲載等を行ってきました。利用者アンケートで寄せられたご意見、ご要望等については、ホームページに関わるものは、例年同様、ワーキングの年間活動計画の参考にさせていただきました。協会の活動に対するものについては、ワーキングの意見も付し、編集委員会を通じて役員会に報告し、協会活動の参考とすべく展開させていただきました。

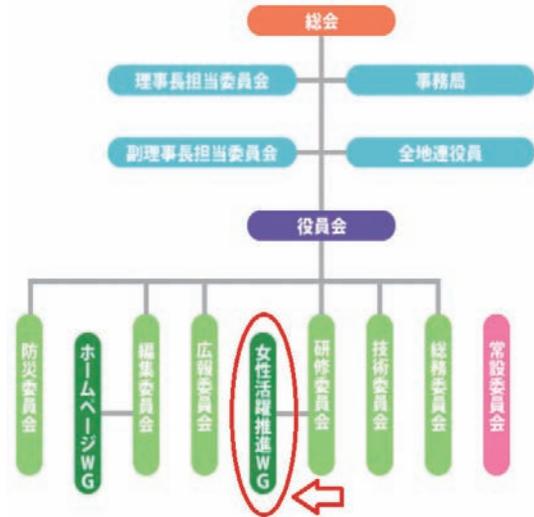
年間を通じた定期的な活動として、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなトピック情報の収集・抜粋・揭示、一口メモの追加、リンク先の拡充、ホームページ不具合の解消活動等を、ワーキングで議論・検討しながら行ってきました。

このほか、ホームページ利用者アンケートで寄せられたご意見を踏まえて、使い易い改良を行いました。

以上のように、わずかな改善ですが、ホームページの利便性向上を図ってきております。

## 女性活躍推進ワーキングの追加

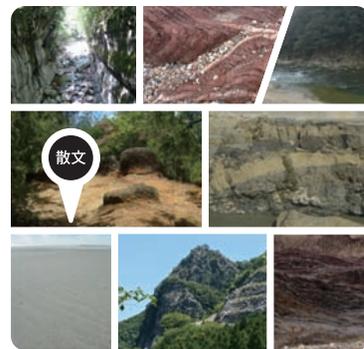
中部地質調査業協会においても、研修委員会の下に“女性活躍推進ワーキング”が組織され、活発な活動がなされています。この実態に合わせるべく、組織図に追加しました。また、ワーキングメンバーの記載を行いました。



## 機関誌「土と岩」への協力

今年度も、昨年度に続き、親委員会である編集委員会からの依頼に基づき、機関誌「土と岩」のプラン作成の参考として、“最近のトピック、気になっていること”についてワーキングメンバーで意見交換を行いました。

また、編集委員会の依頼に基づき、これまでにホームページへ掲載してきた“身近な地質スポット”を再編集し、「土と岩67号」に散文として原稿提供を行いました。興味のある方はご覧下さい。



## 身近な地質スポット

【前編】

編集委員会・ホームページWG 同

## 身近な地質スポットの追加

身近な地質スポットや歴史地震スポットについては、折に触れて追加しております。その内、身近な地質スポット

編集委員会・ホームページWG 宮尾 浩一

については、名古屋市熱田区の“断夫山古墳”，稲沢市の“祖父江砂丘”を、今年度追加しております。お近くに行かれた際には、これらの記事を思いだしていただき、是非、お立ち寄りください。

なお、“断夫山古墳”は、平坦な熱田台地上に土を盛り、構築された古墳で、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)妃の宮簀媛命(ミヤズヒメノミコト)の墓として伝えられているものです。

“祖父江砂丘”は、稲沢市祖父江町にある河畔砂丘(砂床河川の中・下流域の流路に沿って形成される砂丘)で、日本では木曾川、最上川、利根川それぞれ3河川の流域及び旧河道周辺にのみ存在する珍しい地形です。

ホームページでは、このほかにもたくさんのスポットを紹介しておりますので、こちらについても、是非、ご覧ください。

**記事へのアクセスし易さの改善**

ホームページ利用者アンケートではいろいろなご意見・ご要望が寄せられます。それらの検討に伴い、各コンテンツへのアクセスし易さの向上を図ることを目的に、ホームページの改善(リンクボタンの追加)を行いました。そのいくつかを紹介します。

**改善①：地質見学スポットへのアクセス**

地質見学スポットのページには、“身近な地質スポット”のほか、“歴史地震スポット”、“日本ジオパーク”、“博物館・資料館”のページがあります。これらの認識性を高めると同時に、アクセスし易さの改善を目的として、下記のようなリンクボタンを追加致しました。



ホームページワーキングでは、このリンクボタンに負けないう、内容の方も少しずつですが充実させてまいります。

**改善②：その他ページへのアクセス**

上記のほか、地質調査業に related トピックス情報へのアクセスし易さを改善するため、トップページ右上部にリンクボタンを追加しました。このリンクボタンをクリックすると、会員専用ページ内にある関連ページへリンクします。(なお、会員専用ページへのアクセスに必要なID、パスワードにつきましては、各会員企業のご担当までお問い合わせ下さい)



講演会等のイベント情報につきましては、情報の提供をいただいたものは、随時、お知らせページにて皆様にお知らせしております。今年度は、情報提供がないものにも少しでも対応するため、各種研修会等の検索が可能な全地連のGEO NETへジャンプするリンクボタンを、トップページに追加しました。これにより、少しですが利便性がアップするものと期待しております。必要に応じて、ご利用ください。



**その他：現在検討中の案件**

ホームページ利用者アンケートでは、地質調査に関する基本的な情報の充実を希望されるご意見もいただきました。現在、ホームページワーキングで検討を始めております。検討がまとまりましたら、随時、ホームページにて反映させてまいります。

**ホームページ利用者アンケート**

令和2年3月～4月に、昨年同様、ホームページ利用の実態、利用者の皆様のご意見・要望等の把握等を目的に、アンケートを実施しています。この結果は、令和2年度のホームページワーキング活動において参考に致します。

**ご利用・ご支援のお願い**

令和2年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。皆様からの声が、私たちの活動の支えとなっております。

今後とも、関係者一同、より良いホームページになるよう努力してまいりますので、引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。